

浜松市地方創生政策アイデアコンテスト2021

Heritage Valley Project

ヘリテッジ・バレー プロジェクト

多文化共生のまちだからこそ、
グローバル人材の育成を目指す

Team Resilience

岡田桃奈・國持里帆・増野皓太・山本逸斗

浜松市の現状と目標とする将来像

浜松市総合計画

質の高い教育を受けた子どもたちは、
世界を舞台に活躍しており、国際色を高める
重要な人材になっている。

やらまいか浜松
市総合戦略

子どもの個性に応じた支援体制の整備
多文化共生による市民主体の地域社会の形成

浜松市戦略計画
2子育て・教育

インターカルチュラル・シティの考え方に基づく
多様性を生かすまちづくり

5年後

浜松市内に在住する定住外国人の子どもを対象に
サイバースクールを中山間地域に設立する。

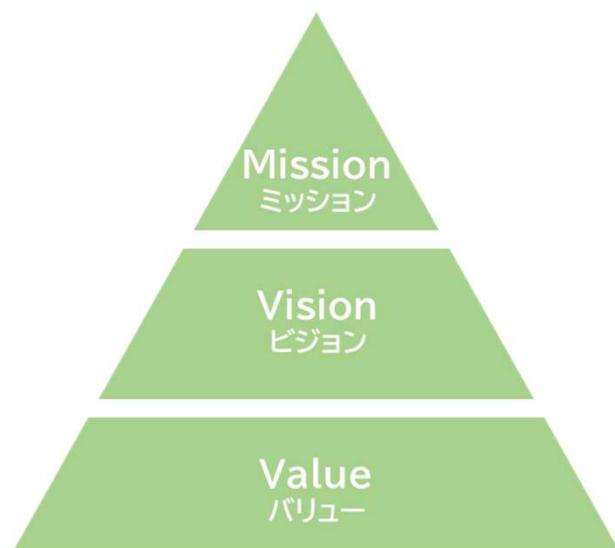
2045

2020-
2015

2021

2026

大学生が運営するサイバースクールの設立



ミッション

浜松市に暮らす、すべての子どもと若者が
世界一活躍できるまちにする

ビジョン

サイバースクールの設立。
子どもたちの笑顔があふれる場所を大学生がつくる
誰でも、どこでも、いつでも学べる仕組みをつくる

バリュー

大学生の専門性を集結し、地域に還元する



現状の分析 海外につながる子どもの支援の状況

浜松市の外国人児童生徒への取り組み

相談員、協力員の配置
就学支援員の配置
就学サポーターの派遣
指導補助者の配置
初期適応・母国語支援
日本語・学習支援

補償的な教育支援

海外につながる子どもの
言語・資源を伸ばす支援が必要!!!

現状の分析 地域調査（アンケート・ヒアリング調査）

① 定住外国人の児童・生徒

対面式アンケート調査 120人

調査期間：2019年～現在に渡り調査中

調査人数：120人

調査項目：「学校の勉強について」「母語について」「日本語について」「将来について」
調査結果：「学校の勉強について」(わからない 65%)「母語について」(難しい 70%)
「日本語について」(難しい 60%)「将来、住みたい場所」(浜松 95%)

浜松市への適応が進む一方、学力が定着していない。

これは、母文化・母語の喪失にも関係があり、2言語が習得されていない状況である。

② 学齢期を超えた

定住外国人の若者

ヒアリング調査 8人

・「母国にいた頃話すことができた英語や母国語は喪失してきている。」

(国籍：日本 性別：女性 年齢：20歳)

・「アイデンティティについて、今もまだ不安定であり、混乱している。自分が何者なのか、分からない。」(国籍：フィリピン 性別：女性 年齢：20歳)

・「(自身の)子どもには、日本で住んでほしいけど、日本語だけでなく母国語も忘れないでほしい。」(国籍：日本 性別：女性 年齢：27歳)

・「知り合いの子どもで、母語・日本語共にうまく話すことができず、学校に行けなくなってしまった子がいた。」(国籍：日本 性別：女性 年齢：20歳)

③ 有識者

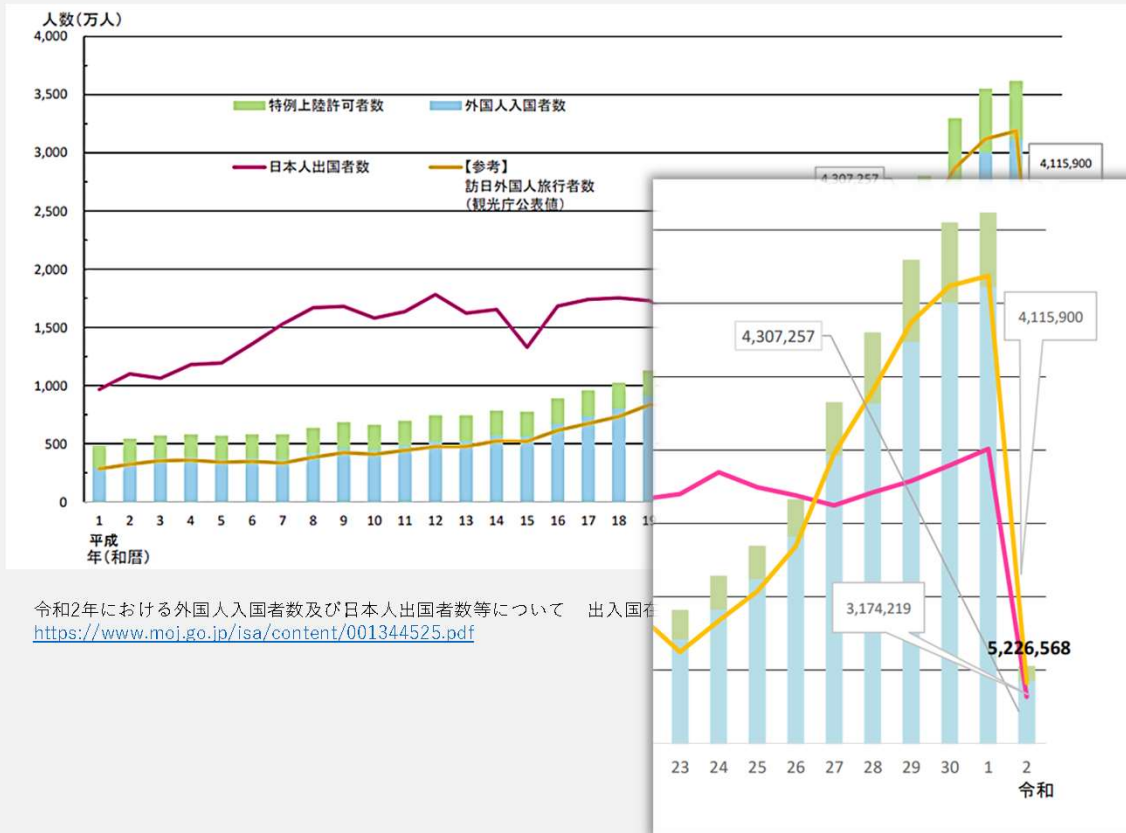
「多言語や多文化で育った海外につながる子どもの言語、文化資源を伸ばす教育システムがない。」

「多様な学びが用意されていない。」

「子どもの本来持つ言語・文化・アイデンティティを身に付けることができない。子どもの言語文化が公立学校で失われている。」

外部環境の変化

■外国人入国者数・日本人出国者数等の推移

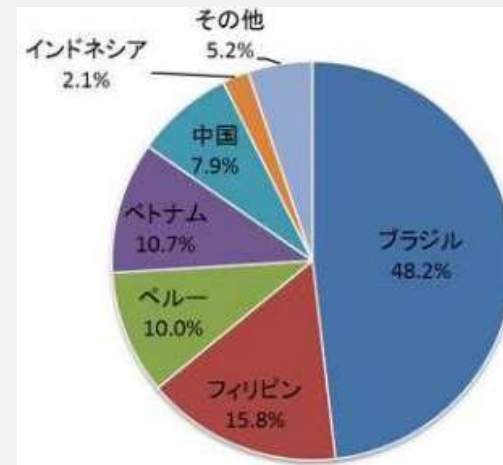


■コロナ禍における各国の入国対応状況

国籍	入国制限措置をとっている	入国に際して条件や行動制限措置を課している
フィリピン	●	
ブラジル		●
ペルー		●

参考資料新型コロナウイルスに係る日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国に際しての条件・行動制限措置：外務省海外安全ホームページ
https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/pdf/history_world.html

■外国籍児童生徒の国籍別割合



参考資料「外国人子供教育推進事業」説明資料
 浜松市教育委員会 学校教育部指導課
 (教育総合支援センター) 外国人支援グループ
 (2021)
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/85593/hpgaikokujinr30501.pdf>

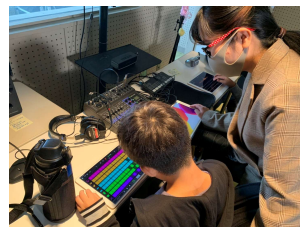
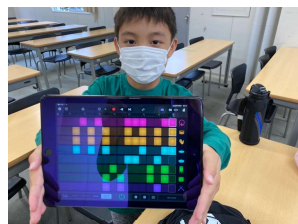
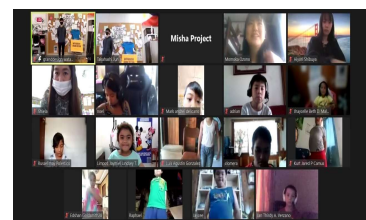
現状の分析 - 解決したい課題 -

Strength（強み）	Weakness（弱み）
● 政令指定都市 人口約80万人 面積 全国第2位 ● 地理的条件 日本のほぼ中央 ● 技術集積都市 繊維・楽器・輸送用機器+先端技術産業 ● 多文化共生政策 インターカルチュラル・シティ（ICC）の加盟 外国人子供教育推進事業（日本語・母語支援） ● 2万5千人の外国人市民 外国人人口動態 増加	● 人口 年少人口の減少、高齢人口の増加 首都圏への転出超過 ● 中山間地域 条件不利地域、過疎化および少子高齢化、地域経済の衰退 ● 産業・地域の担い手の不足 担い手の減少や高齢化により、耕作放棄地や放置林の増加など農地や森林の荒廃 ● グローバル都市間の競争激化 外国人市民との共生 ● 都心機能が分散し、都心の求心力の低下
Opportunity（機会）	Threat（脅威）
● SGDｓ・統合イノベーション戦略 浜松市SDGs推進プラットフォーム 浜松市デジタル・スマートシティ構想 Society 5.0の推進・ギガスクール構想	● 新型コロナ拡大 人の移動の制限 経済活動の停滞 観光地域の衰退

市民のメリット	市民のデメリット
1. 定住外国人の子どものグローバル人材の育成	1. ICTに関わるコスト
2. 運営大学生の市民性教育	2. カリキュラム構築に 関するコスト
3. ICT 教育の技術の汎用性（他の地域及び対象者への転用）	3. サイバースクール運営に関わるコスト
4. ICT教育の技術力の他の分野への転用	4. サーバーのクラウド化に伴うコンテンツ及び技術流出
5. 関係人口の増加による中山間地域の活性化	

多文化共生×中山間地域×社会変容 中山間地域にDXによる多文化教育システムの導入

中山間地域を拠点とした サイバースクール設立



2023

2024

2025

2045年
ヘリテッジバレーの
始まり

中山間地域

- 産業の創出
- 人口の増加
- 少子化対策

浜松市

- 大学生の活躍
- グローバル都市へ



HERITAGE
VALLEY

2020

2021

2022

➢ フィリピン教育省と共同して授業開始

浜松学院大学
静岡大学

➢ フィリピン教育省と浜松市教育委員会によるカリキュラム開発

➢ 参加学生の募集
(浜松市・ダバオ市)

➢ サイバースクールの拠点決定
(中山間地域)

➢ ICT環境の整備
➢ 学生の研修
(メンターリング)

➢ 施設準備
➢ 参加児童の調査・募集

➢ ICT機材の選定
➢ 学生の研修
(メンターリング)

➢ パイロットプロジェクトの開始
➢ PDCA サイクル
➢ 学生の研修
(メンターリング)

サイバースクール
開 校

- 浜松市公立小中学校授業化
- 参加大学単位化

プロジェクトの予算

(金額：千円)

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計
器具備品費	PC、Wi-Fi等	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000
設備費	施設利用料	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	14,000
教材費	多言語教科書等	200	200	450	450	450	1,750
システムサービス費	共用サーバー	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	14,000
消耗品費	事務用品等	2,000	1,000	360	360	360	4,080
学生募集費	パンフレット、 チラシ等	400	400	200	200	200	1,400
雑費	サーバー保守運用 管理代等	100	100	100	100	100	500
合計		9,300	8,300	7,710	7,710	7,710	40,730

参考資料：第 3 期事業報告 株式会社サイバー大学 [jigyoku_cu_03.pdf \(cyber-u.ac.jp\)](#)

私たちの政策提言

浜松市内に在住する **定住外国人の子ども** を対象に
サイバースクール を **中山間地域** に設立する。

